

富山市定例市長記者会見（令和4年8月17日）

■冒頭

市長

お疲れ様です。お忙しい中、定例記者会見にお集まりいただき、ありがとうございます。それでは早速始めさせていただきます。

■小学生を対象とした景観まちづくりワークショップの開催について

市長

子どもの頃から地域の景観の特徴や、良好な景観についての関心や感性を育んでもらうことを目的に、社会科の授業で景観について学び始める小学4年生から6年生を対象とした景観まちづくりワークショップを、富山駅北の親水広場を中心に、10月23日に開催することといたしました。小学生を対象とした景観まちづくりに関するワークショップの開催は初めての試みです。

楽しみながら景観やまちづくりについて学んでもらいたい、関心を持ってもらいたい、そのために、今回のワークショップでは、子どもたちにも人気のあるゲームソフトの一つである「マイクラフト」を用いて、本市の景観やまちづくりについて考えてもらうこととしました。当日は、マイクラフトの習熟度に関係なく初心者から上級者まで参加いただけます。

ワークショップでは、参加者は「歩きたくなる楽しい空間づくり」をテーマにアイデアを出し合ってもらい、3D都市モデルで再現された親水広場に、修景などの工夫を行うというまちづくりの疑似体験を通して、優れた景観の形成や地域の特徴を活かしたまちづくりなどについて学んでいただくものになっています。

現在、申し込みを受け付けておりますが、申込期限は9月20日までとしております。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。詳しい内容については、景観政策課のホームページをご覧ください。

今後の景観啓発の取り組みといたしましては、広く一般の市民の方を対象として景観についての講演会等を行う「景観フォーラム」を11月に開催する予定としております。

景観やまちづくりに対して一人でも多くの市民の方々に関心を高めていただくために、今後も様々な機会を捉えて、意識啓発を行ってまいりたいと思っております。

■報告事項(令和4年8月13日(土)の大雨に伴う被害について)

市長

次に、8月13日(土)に発生した大雨の被害等についてご報告いたします。

始めに、今回の大雨により被害を受けられた市民の皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

お手元の資料は、昨日、報道関係の皆様へ送付させていただいた、今回の大雨による被害状況等の第4報であります。

今回の被害をもたらした8月13日の気象状況ではありますが、県内に湿った空気が流れ込んでおり、それと同時に、大気の状態が不安定になったことから、積乱雲が発生し、市内では17時頃から非常に激しい雨が降り始めました。気象庁から17時26分に大雨警報が、18時18分には洪水警報がそれぞれ発表されました。

この雨により、旧富山市地域の東部および南部を中心に、複数の河川や用水、道路側溝の水が溢れ出し、道路冠水や家屋の床上、床下浸水等が発生したものであります。

これまでに市が把握した被害状況といたしましては、一つ目に、家屋等の被害として床上浸水が 19 件、床下浸水が 81 件、二つ目に、公共施設の被害であります。山室小学校及び藤ノ木小学校で床上浸水、新庄小学校でエアコンの室外機の故障、児童養護施設である愛育園及び市民プールで天井からの水漏れの発生、三つ目に市が管理する道路の被害として、広田地下道で冠水及び土砂の堆積等により通行止めが発生し、現在も（通行止めが）続いているという状況になっております。

なお、現在のところ、人的被害の報告は受けておりません。

また、今回の大雨で被害を受けられた方々への対応につきましては、現時点では、一つ目に、畳や家財等の災害ゴミにつきましては、環境センターにおいて個別収集による対応を行っています。二つ目に、住宅や農業施設等の被害を受けられた方への罹災証明書の発行につきましては、市民課や農政企画課を窓口として対応しております。これらの情報は市のホームページにも掲載しておりますので、被害の内容に応じてそれぞれの担当課にお問い合わせいただければと思います。

いずれにしましても、被害にあわれた皆様が一日も早く普段の生活を取り戻せるように、市としても、引き続き必要な支援を行ってまいりたいと考えております。

■ 報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

毎日、報道（機関）の皆様にも大変タイムリーにお伝えいただいておりますが、市内の感染者数は、県内に新型コロナ感染拡大警報「富山アラート」が 7 月 27 日に発出された後も、500 名を超える日が続くなど、感染者は高止まりの状況であります。

また、高齢者施設等でのクラスターが多発しております。8 月 1 日から 8 月 16 日の間に 12 件発生しました。このようなことに伴い、高齢者の感

染事例が急増しております。その結果、入院者数が急増し、医療機関に大きな負担がかかっている現状を、非常に大きな問題だと捉えております。

このため、富山県において「富山アラート」を8月23日まで、2週間延長されたところでもあります。お盆の帰省などで、普段会わない方と会う機会も多かった時期だと思います。富山市としましても、今後の感染状況を引き続き注視してまいりたいと考えております。

市民の皆様におかれましては、外出する場合は、混雑を避けていただき、少しでも発熱や咳、のどの痛みなど体調に異変があるときは、外出を控えていただくなど、ご協力をお願いいたします。

また、暑い時期が続き、エアコンを使用されると思います。エアコン使用時も換気を十分にさせていただくなど、基本的な室内における感染防止対策の徹底をお願いいたします。

なお、現在の感染状況は、いつ、誰が、どこで感染してもおかしくない状況であります。いざという時のために、ご自身の服薬中の薬や日用品、食料品の備蓄にも心掛けていただきたいと思います。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種状況について報告いたします。

本市における、接種状況につきましては、お手元の資料のとおりですが、8月16日現在で、3回目となる追加接種を受けられた方は、275,301人、全人口に対する接種率は66.5%となりました。

また、4回目接種を受けられた方は、59,662人となっており、このうち60歳以上の方は55,112人、率にして37.5%となりました。

4回目接種の対象が医療従事者や高齢者施設従事者に拡大されたことや、夏休みに入り、3回目接種を受けられる方が増えてきていることから、1日あたりの接種数は増加してきております。

引き続き1、2回目や3回目接種も実施しておりますので、まだ接種がお

済みでない方は、是非とも接種していただきますよう、お願いいたします。

■その他

市長

発表は以上であります。先般もご質問を受けておりました旧統一教会の件について、お話をさせていただきたいと思っております。

これまでの記者会見で、私は、一度立ち止まってしっかりと考えてみたいと発言をさせていただきました。また、これまでの一連の報道も受けまして、私なりに改めて調べてみました。世界平和統一家庭連合、いわゆる旧統一教会であります。が、(世界平和統一家庭連合と)その関係団体には関連性があることを認識すると同時に、世界平和統一家庭連合は、旧統一教会の元信者やその親族から(提訴されており)、裁判において教団の不法行為が認定されている事実を確認したところでもあります。また、現在も裁判で係争中であるという事例も確認いたしました。

このようなことを踏まえて、私としては、まず市長としての公務、あるいは富山市としてであります。が、今後、旧統一教会及びその関係団体との関わりは一切持たないことにいたします。また、市長の出前トークの開催、あるいは関係団体が主催する諸行事及びイベント等への出席、並びに市の後援等の名義使用承認についても、今後は一切行わないことといたします。

次に、私の政治活動、政務(活動について)です。平和大使の任命を辞退することといたしました。平和大使協議会での私の後援会の立ち上げについても決議をいただきましたが、これも併せて辞退を申し上げます。従って、今後は、後援会活動といった政務においても、旧統一教会関係者から紹介のあった集会等には一切出席はいたしません。また、旧統一教会関係団体の幹部や役員の方はもとより、そのような団体に所属しておられる方であることがはっきりわかる場合には、一切、政治的には関わりを持たないということにさせていただきます。

私からは以上です。

■ 質疑応答

記者

新型コロナウイルス感染症に関連して伺います。国が感染者の全数把握について見直しの検討に入ることになりました。先日の会見でもご説明いただきましたが、足元の保健所の現状を含めて、全数把握見直しについて市長の見解をお聞かせください。

市長

全国知事会や東京都医師会は全数把握がすでに難しいということから、その把握については見直しが必要であるという意見でありました。現場はまさにそのとおりだと思います。医療機関や保健所、（富山市の場合）特にその業務は富山市保健所になりますが、業務が逼迫^{ひっ}して、すでに対応できない状態であるということは先日お伝えしたとおりでありますので、私からも、できればそのような方向で、全国知事会が厚生労働大臣に申し上げておられたような形がいいのではないかと考えております。

記者

旧統一協会（関係団体との関わり）に関連して、これで一切関係を持たないということをお聞きしました。しかし、先月発売された旧統一協会と関係の深い会社が発行している雑誌に、市長のインタビューが載っているということがわかりました。どういった経緯で掲載に至ったかお聞かせください。

市長

前回の（会見時に）ご質問にお答えして、雑誌の取材を受けたということを発表させていただきましたが、それは秘書課を通して、正式な取材でありました。内容は、富山市の目指すスマートシティについてということで、コンパクトシティ政策と私どもが目指すスマートシティ政策の関連性

について、その時は取材に応じて話をさせていただいたという経緯でありました。ビューポイントという雑誌です。

記者

その雑誌がどういったものか、どういった方を通じて(依頼があったか)などについて調べることはありましたか。

市長

それ(について調べること)はありませんが、秘書課を通して申し込みがあり、それ(取材)をお受けしたということでもあります。

記者

7月末に総務省からふるさと納税に関する現況調査結果が公表されましたが、県内の市町村別で見ると富山市は流出額が一番大きくなっています。また、受入額は高岡市などと比べると少なくなっています。市長としてこのような状況をどのようにお考えかお聞かせください。

市長

ふるさと納税は、市の特産品や市の良いところをPRする絶好の機会となる制度だと捉えています。その上で、富山市のふるさと納税は、収入よりも支出の方が非常に大きいということは認識しており、非常に残念なことだと思っています。

それは我々が、まだまだ富山市の特産品や良い観光資源、良い体験、景色、自然のアクティビティ、食の魅力等も含めて、十分にアピールしきれていないということなのではないかと思っています。

そのようなことも含めて、ふるさと納税に関しましては、しっかりと力を入れたいと思っており、調査研究を(行っています)。すでに昨年度から調査研究を行っており、実際に視察に行つてヒアリングなども行っています。あるいは、専門のアドバイザーに相談したり、これから招聘して、しっかりと関係各課でそのノウハウを蓄えながら、すぐに実践していけるように準備をしている段階であります。ですから、ふるさと納税に関しては、まずは収支とんとんに持つていくということ、できればそれ以上に

というところが目標であります。

記者

東京の方の自治体などでは、住民に対して、これだけ流出額が大きいのでふるさと納税をすること自体を考えてほしいというような訴えをしている首長もいらっしゃるかと思いますが、市長としては、今の段階では収入を増やすほうに力点を置いた方がいいということでしょうか。

市長

そうですね。そのような制度で日本全体がやっているわけですから、しっかりと取り組めればと思っています。

=====

記者

野党は旧統一教会の問題対策チームを発足させるなど、政治家との関係や認識を追求する姿勢を示していますが市長としてはどのように受けとめていますか。

市長

これだけ大きな社会問題になっておりますので、被害に遭われた方々の状況等も含めて、政治家がその団体やそのような方々のイメージアップや信用向上に利用されたのではないかなというようにも言われています。

そのような点については、我々も十分に気をつけていかなければならないと思っているところでありますので、野党の追求の姿勢というのは当然だろうと考えております。

これは与野党問わず、反省すべきところを反省して、そのために今までの事実を自分でしっかりと調べて、考えてみるということは非常に大事なのではないかと考えています。

記者

藤井市長は、しっかりと（旧統一教会関係団体との）関係を調べ、今後一切関係を断つとお話しされましたが、藤井市長以外にも議員、例えば市議の方など、（他の）皆さんに対しても、関係についてしっかりと調べるべ

きだというお考えですか。

市長

これは私自身の話なので、私自身は自分の経緯を振り返って調べさせていただいたということであります。他の政治家の皆さんは、それぞれ責任を持って、しっかりと対応されればいいと思いますので、私が申し上げることではないと思っています。

記者

改めて、今後一切関係を断つと決められた理由をお聞かせください。

市長

これだけ社会問題化して、報道等でも政治家と当該団体の関係性を疑問視する、あるいは問題視することが社会問題になってきています。このようなことを鑑みますと、やはり一人の政治家として、しっかりと自分なりに関係を断つという判断に至ったわけであります。

富山市の長といたしましても、市民の負託に応えるべき市役所が、そのような問題のある団体に後援を出すなど、そのようなことはあってはならないことだろうという判断をいたしました。

記者

広田地下道が土砂の堆積により通行止めになっています。このことについて、13日の夕方から今も通行止めが続いているということでしたが、その理由と復旧の目途をお聞かせください。

市長

今週末を目途に復旧したいと（考えています）。今日から作業にかかっていますので、今週末には作業を完了して、通行止めを解除したいと思っています。

お盆（に重なったこと）で2日ぐらい、業者が（休みで）入れなかったというのが正直なところです。それで住民の方々にはご不便をおかけしたというところであります。

水はすでに処理できているのですが、流入した土砂は細かい粉じんが立つようないわゆる泥であり、それを撤去するのに、重機などでは拡散して（しまい）、吸い出すことができないので、ほぼ手作業というか、すくい取って（処理することになります）。最後は水掃除だと思いますが、（水掃除のための）地下水のくみ上げポンプの関係もあります。また、流入した土砂そのものは、災害廃棄物ではありませんが、しっかりと埋設処分をしなければいけないと考えておりますので、その段取りや、作業にも手作業が多いわけでありますので、手間がかかっているということです。

記者

大雨の被害についてですが、学校施設である山室小学校や藤ノ木小学校といった避難所となるべき場所が浸水していますが、今回の雨で感じられた都市構造の課題などはありますか。

市長

今回（8月13日に）降った雨は、気象庁の発表では、（富山市内の各観測地点では）30ミリ前後になっていました。（しかし、）富山市にはセンサーネットワークがあります。このセンサーネットワークでは、中川やがめ川などに（設置している水位計に付随する雨量計で）1時間の雨量が計測できるようになっております。市独自の計測であります。それによりますと1時間に90数ミリ降っているという地点もあるわけです。しかも（13日午後）5時前から（午後）7時前までの短時間に降ったということで、（富山公共下水道事業）計画の排水量をオーバーし、道路が冠水して、床下浸水、床上浸水になったと捉えています。ですので、今後はその地形や排水の入っている場所や形状によっても、十分な性能が発揮できるかどうかという問題もありますので、現在、建設部が中心になって、床下浸水、床上浸水が発生した箇所の排水について、再度検討するという方向で考えております。

記者

新型コロナウイルス感染症の報告事項の中で、病院も逼迫^{ひっ}しているとい

う説明がありました。もう少し具体的にお聞かせください。

市長

病床数は逼迫^{ひっ}していませんが、医療従事者がコロナに感染し自宅待機ということになると、通常の診療ができなかったり、もちろんコロナにも対応できなかったりということが発生してくるわけです。現在、入院患者が徐々に増えてきておりますので、そのようになりつつあるというような状況であります。

なお病院はそうありますが、保健所は以前にも言ったとおり、すでにひどい状態になっておりますので、非常に危惧しているところであります。

記者

今おっしゃった病院は市民病院でしょうか。

市長

入院病床を持っている病院であります。市民病院が主であります。

記者

医療従事者の方が感染している事例があつてということでしょうか。すでに、そのようなことが起こっているということでしょうか。

市長

それもありますが、コロナで入院する患者も増えてきていますので、それと（あわせて）二つの原因です。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課